

に本誌上でも数回紹介されたことがあり また 本講座においても その地質学的意義について簡単に触れておいた。 後者についても 数多くの論文や解説が発表されているが 地下水と地質との関係については 誤った考え方が少なからず流布されているのは残念である。

この地下水の問題はこの平野の合理的利用・開発を進める上にとくに大きな比重を占めているので 適当な執筆者を選んで 稿を改めてくわしく述べてもらうことにしたい。

(著者は燃料部石油課 平野地質グループ長)

地 学 と 切 手



第1回 眺の富士(昭11.7.10)



東 海 道 よ り の 富 士



第2回 七面山よりの富士(昭24.7.15)



第3回 芦の湖の富士(昭37.1.17)



石 廊 崎 み の か け 岩



三 ツ 峠 よ り の 富 士



本 栖 湖 よ り の 富 士

富士箱根伊豆国立公園 堀内 恵彦

この公園は名前の通り 富士山を中心とする富士地区 箱根火山群の箱根地区と昭和30年に追加指定された伊豆の地区からなり 山梨・静岡・神奈川の3県にまたがる 948.14km<sup>2</sup> の面積を占めています。 昭和11年2月1日に指定され その後2回にわたる追加指定で現在の面積となりました

富士地区は世界の名山として有名な円錐火山の富士山を中心として 北麓には山中・河口・西・精進・本栖のいわゆる富士五湖をもち 人跡未踏の雄大な青木が原の樹海や 遠野が原などの広大な裾野原野を展開し 大出山三ツ峠 精進パノラマ台など雄大な眺望を展望するによい地域をも含んでいます。 山体の中腹には宝永山 大室山 小富士などの寄生火山や 樹型 風穴 氷穴等を作り出した数条の溶岩流があります。 西方大沢の浸食谷は年々崩壊の度を強め 一種のぶきみさを感じる程です。 山麓帯には広大な伏流水が白糸滝 猪の頭の瀑園 忍野の八海などの景勝をつくり レンゲツツジ フジザクラ 忍野のハリモミ林 諏訪森のアカマツ林などの植物群を形成し鳥類の繁殖も盛んで ライチョウが移殖され無事に育っていることは最近話題になっています。 古来から富士山は信仰の中心となり 詩や絵画などによって国民の生活に融け込んでいることは どのたもご承知でしょう。 また富士山は高度のわりに登山が容易で 近年は五合目まで自動車で行くことができることもあづかって年間16万を超す登山者があり 頂上からの展望は雄大です。 また最近世界最大の気象観測用 レーダー(有効半径800 km)が設置されました。

箱根地区は明神岳 金時山 乙女峠 長尾峠 鞍掛山等の外輪山に囲まれ 火口原湖の芦の湖と仙石原の草原をもち 中央には神山 駒が岳 双子山などの中央火口

丘がそびえ 大涌谷の爆裂火口や早川などの流域に溪流に臨んで湧湯を引いた箱根12湯は有名で 箱根権現 早雲寺 関所跡などの社寺や史跡も多くあります 最近では有料道路の箱根バイパスや箱根スカイラインが開通しさらに空中ケーブルや芦の湖の観光船も整備されております。

伊豆地区は箱根十国峠から南に高岳 天城山を経て達磨山に至る山稜地域と半島の東西両岸にわたる海岸線全域が公園地域で 天城山の山稜は温帯性原始林におおわれ海岸は西南部石廊崎付近や波勝崎の高さ260 mにもわたる海食崖の発達がすぐれた景観です。 また東岸先原付近は多くの小火山を伴う溶岩原が海岸に臨んでおり特異な地形を示しています。 この地域には さきに開通した伊豆急電鉄を主として各方向に発達している自動車便などこの程完工をみた天城山稜上を縦貫して走る伊豆スカイラインによって 道路公園としての特色ある景観を楽しむことができます。

以上3地域を総合して この公園は 登山 ハイキング キャンプ 避暑 舟遊び 釣 ゴルフなどが楽しめ 箱根伊豆地区は各所に湯泉が湧出し その設備も完備しています。 しかも3地区ともに交通の便に恵まれており 京浜地区に近く 東海道・中央の各線によって簡単に到達できるので利用度はきわめて高い地区です。

切手印面には大正11年発行の普通切手に採用されて以来 数種に採用されています 国立公園切手としては 第1回が昭和11年7月10日に1<sup>1</sup>/<sub>2</sub>銭 3銭 6銭 10銭の4種 第2回が昭和24年7月15日に2円 8円 14円 24円の4種 第3回が昭和37年1月17日に5円2種 10円2種の計4種 総計12種が発行されています。

(筆者は元所員 現科学技術情報センター)